

## 令和8年度全国学力・学習状況調査の公表に係る教育長コメント

令和8年8月3日

本年4月20日から順次実施された「令和8年度全国学力・学習状況調査」の結果が、本日公表となりました。今回の調査は、国語、算数・数学に加えて、3年ぶりに中学校英語の調査が実施されました。

学力の調査結果を校種別・教科別に見てみますと、小学校については、県と全国の平均正答率の差が、国語は+0.1ポイント、算数は+1.8ポイントと、2教科ともに全国平均以上を維持しています。

中学校については、全国との差が国語で-0.8ポイント、数学で-2.7ポイントと、全国平均には及ばないものの、前年度と比べて着実に改善が見られます。また、オンライン方式で実施された英語は、IRTスコアを1～5の5段階に区分した際の基準となる「3」に位置しており、全国標準の学力が身に付いていると捉えています。

また、小・中学校ともに、学力に課題が見られる児童生徒（D層）の割合が多く、多くの教科で前年を下回り、減少傾向にあることは大きな成果であります。こうした改善の傾向は、日頃から子どもたち一人一人の成長に温かく寄り添い、授業改善や組織的な支援を重ねてこられた教職員の皆様のご努力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

評価の観点別に見てみますと、小・中学校ともに「思考・判断・表現」は全ての教科で全国平均と同等またはそれ以上となった一方、「知識・技能」については、課題が残る結果となりました。これらのことから、「知識・技能を習得する学習」と「知識・技能を活用する学習」を一体的に進める授業改善がさらに必要であると考えております。

次に、児童生徒質問調査からは、「課題解決に自分から取り組んでいる」と回答した割合が全国を上回るなど、主体的な学びが定着しつつあるといった成果が見られます。一方で、スマートフォン等によるSNSや動画視聴等の平日1日3時間以上の利用時間は、前回調査よりも小学校は17.9ポイント、中学校は18.4ポ

イント増加しています。また、利用時間と学力の関係からは、利用時間が長い児童生徒ほど各教科の正答率が低い傾向が見られました。このことから、スマートフォン等のデジタル機器の適切な利用方法を身に付けることはもとより、長時間利用が及ぼす影響についても、引き続き啓発していく必要があると考えています。

県教育委員会としましては、今後、今回の調査結果を詳細に分析し、指導主事による訪問指導や、中学校数学等における「教科ネットワーク」の取組を通じて、授業改善につなげてまいります。また、「対話型 AI」等の指定校で成果の見られた実践を県内へ横展開し、一人一人の理解度に応じた、「個別最適な学び」を充実させてまいります。

さらに、デジタルだけでは得られない、感動や協働による学び、地域と関わる体験活動、そして将来に向けて学ぶ意義や楽しさを実感できるキャリア教育を推進してまいります。

市町村教育委員会や学校におかれましては、今回の調査結果から明らかになった成果や課題を十分に分析し、一人一人の児童生徒の学力や学習状況の改善に役立てていただきたいと思います。

保護者の皆様におかれましては、ぜひこの夏休みに、家庭学習の習慣化や多様な体験の機会の確保について、ご支援していただければ幸いです。県教育委員会としましても、子どもたち一人一人が生き生きと学び、それぞれの可能性を最大限に伸ばせるよう全力で取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

高知県教育長 今城 純子